

大年神社 ～桜の通り抜けが見事～ (和歌山市梅原)



和歌山市の北部、府県境の孝子峠に向かう旧国道26号線（現県道752号線）梅原交差点付近にある大年神社は桜の時期になると素晴らしい姿を見せてくれる。特に写真のように桜のトンネルが見事で、所謂“映える”場所として訪れる人は多い。近くにある小学校の新一年生が暖かい日だまりの中お母さんと一緒によく写真を撮っている微笑ましい光景に出くわす事もある。

この神社、和歌山城から見ると丁度北西にあたり、乾の方向（戌と亥の間なのでいぬい→乾）にある事から別名“乾の宮”と呼ばれ、初代藩主徳川頼宣公をはじめ代々紀州藩主から崇敬され親しまれてきたそうです。遙か江戸時代に思いをはせながら桜の花を愛でるのもいいものですね。（取材 萬羽）



段々畑 ～日本の原風景～ (紀美野町三尾川)

紀美野町にはその地形学的特徴から未来に残すべき美しい棚田や段々畑があちこちに点在する。棚田としては見事なススキが原で有名な生石高原の麓に広がる大規模な中田の棚田が有名である。その中田の棚田にひけをとらない風景を見せてくれるのがここ三尾川の段々畑である。

うねりながら等圧線の様に広がる畑は近くで見るより遠目に眺めるのがその全容を視界に納めることが出来る。海南から高野山に向かう国道370号線を走り、途中有田川方面に車を進め登り道を進んでいくと左側に視界が開け、写真のような景色が飛び込んでくる。

全国的に農業従事者の高齢化に伴う後継者不足から耕作放棄地などが問題となっている昨今、これだけの美しい耕作地を全体の調和を保ちながら維持保全されている地元の方達の御努力には頭が下がる思いである。未来に残すべき日本の原風景として全国的な理解と施策が望まれる。

（取材 萬羽）

